

# 第16回「議員と語りかい」報告書

産業建設常任委員会

開催日	平成27年8月19日(水) 午後1時00分 ~ 午後3時30分		
開催場所	霧島市議会 第3・4委員会室		
団体名	霧島市薩摩義士顕彰会	参加人数	13人 (男12人:女1人)
出席議員	木野田 誠、中馬 幹雄、前島 広紀、厚地 覺、新橋 実 岡村 一二三、下深迫 孝二		
役割分担	委員長(下深迫 孝二) 副委員長(前島 広紀) 記録係(前島 広紀)		
テーマ及び具体的な内容	・道義高揚運動における霧島市薩摩義士顕彰会の役割 ・治山・治水事業を霧島市はどのように考えているのか		
感想	薩摩義士に学ぶ心が、祖先に対する感謝の気持ち、さらに道義高揚につながるという趣旨であったと感じた。		
反省点	身近な天降川の川筋直しについての知識を学んでおくべきと感じた。		

◆は参加者の質問・要望 ◇は議員の回答

<意見交換会での主な意見等>

◆「山を治めて水を治める。川を治める者は国を治める」として、江戸幕府の命令のもと、木曾での治水事業を行った薩摩義士を、未来永劫にどう伝えていくか。

◇昨年、行政視察で海津市に行って「報恩感謝」を知った。霧島市でも学校などで出前講座を実施してほしいと思う。海津市は、薩摩義士が行った治水事業によって受けた感謝・恩恵の念が行きわたっている。

◆川の寄洲除去について、アユの保護との関係はどうか。

◇寄洲除去作業は、川床すべてを取り除くのではない。川床から10cmほど残しているのだから心配ない。

◇霧島市は、平成25年度に44,970m<sup>3</sup>の寄洲除去を行っている。最近、住民の考え方が多様化し、草を刈ると野鳥が困るという自然保護の観点からの課題もある。

◆地域住民が道路、河川の草刈りをするが、最近特に県が河川の草刈りをしなくなった。中洲のヨシを燃やしていたが、3年前からそれもなくなった。県はもう少し美化運動に力を入れてほしい。

◆広瀬海岸などに植えられた、海津市からの「戻り松」が成長し、素晴らしい松並木になってきている。ト

イレ等を設置して公園化してほしい。

◆30年前に帰省した時、竹山ダム周辺が荒れており、農業政策が間違っていると思った。その後、清掃して現在はきれいになった。農民に喜びを与えれば地域が活性化し、自然への感謝の気持ちも生まれる。

◆海津市との交流事業の予算をこれまで通り確保してほしい。また、同顕彰会に対する委託金も減る方向があるので、確保してほしい。

◆海津市では、報恩感謝の気持ちがかかり前から続いている。しかし、霧島市は、合併して間がないことから「道義高揚」の精神が薄れている。戦後70年。教育は大切である。啓発運動は地道だけど少しずつ進めていかなければならない。

◆ごみの分別が3年前くらいからよくなり、ごみが減った。道義高揚の精神が浸透していけば、20年、30年先はもっとよくなる。

◆アサタニ水路は、昔は水が足らなかったが、今では水田耕作者が減って水は足りている。しかし、溝（水路）の管理が大変である。

◇道路、河川などはアダプト制度を活用してほしい。